

除夜の鐘

平成25年12月第5週放送

「除夜^{じょや}」とは、大晦日^{おおみそか}の夜のことをいいます。旧い一年に別れを告げ、新しい年を迎える大晦日の夜に、打ち鳴らされる鐘が「除夜の鐘」です。

百八つの鐘を鳴らすのですが、その回数のいわれは、諸説あります。

もっともよくいわれるのが、煩惱の数です。私たちには、百八つの煩惱があり、それが自らを苦しめているのです。ここでの百八という数字は、「多い」ということの象徴で、想像している以上に、私たちはたくさんの煩惱を抱えているということを、表しているのでしょう。

除夜の鐘が煩惱を表しているとするならば、鐘が一つ鳴るごとに、私たちは自分の心を省み、見つめなければなりません。

旧い年が過ぎゆく時に、自らの心を省みる鐘を鳴らすのは、心を深く見つめる仏教にふさわしいことだと思います。

老いや^{やまい}病などの逃れられない根本的^{しゅくはっく}苦しみである、四苦八苦を取り払う、つまり苦しみから解き放たれる、という説もあります。四苦八苦、四×九+八×九の答えが百八です。

仏教は、人生の苦^くを見つめ、そこからの解脱^{げだつ}を説きます。除夜の鐘の音^ねを聞きながら、自ら抱えている苦をまっすぐ見つめ、そこからの解脱を願い、実践を続ける。これもまた、仏教にふさわしいことといえるでしょう。

また、一年^{あらわ}を表すという説もあります。月の数の十二、二十四節気の二十四、七^{しちじゅうにこう}十二候の七十二を足すと百八になります。

時間は、再び戻ることはありません。除夜の鐘の一音^{いちおん}一音は、もう二度と戻らない時間の象徴です。「今・ここ」を生きることを仏教は説きます。かけがえのない一つの鐘の音^ねに耳を澄ますのも、とても仏教的な、除夜の過ごし方といえるでしょう。

低く深い鐘の音が、大晦日の夜に響き渡ります。この鐘の音色を聞きながら、自らの煩惱や悩み、苦しみに目を向けたいものです。

除夜^{かえり}の日に、二度と戻らないこの一年のひとときひとときを省み、新しく迎える次の一年を、丁寧に生きることを誓ってみませんか。

— 終 —